１０３号　ローハスの市場規模

アメリカでは、社会学者のポール・レイ、シェリー・アンダーソン両氏は「カルチュラル・クリエーテブ」でローハス的価値観を持った人々は全米人口の２６％にあたる５０００万人存在し、消費市場規模は３０兆円と発表した。「カルチュラル・クリエイテブ」とはエコロジーや地球環境、平和、社会正義、自己実現、自己表現に深い関心を寄せている人々だ。この発表により、フランク・ランビン、ステーブ・ホフマン両氏が「Ｒｏｈａｓ　Ｊｏｕｒｎａｌを発刊しＲｏｈａｓマーケッテングを形ずくつた。アメリカでは、農業のＲｏｈａｓｕ化が進み、オーガニック農業は、毎年２０％の伸びを、１０年以上続ける高度成長市場だ。一方日本での農業面でのローハス即ちオーガニック農業は消費者に受け入れられているとはいえず普及は今一歩足踏み状態だ。ファション、自然化粧品などに流れモノ的に受け入れられていないことが懸念されている。こんなとき、人それぞれ価値観を持ち生活を楽しみながら結果的に省資源、エコにつながり地球温暖化防止、地球環境の改善につながることが期待されている。

７年３月２９日

# ヘリコプターによる東京上空視察レポ

　城東警察協議会の任期は２期４年この３月で任期が満了だ。警察も付き合っているといいこともあるものだ。今回風岡署長の置き土産で、警視庁航空隊のヘリコプターに搭乗し東京上空を視察することになった。午前中は定例協議会、警察署長に地元の顔役が物申す会で、一年に四回実施される。私は東京新木場木材商工協同組合の代表として、川端署長、成増署長、風岡署長、そして今回の黒田署長だ。それぞれ、署長になるような人は、個性豊かで、味のある方がばかりだった。このほか、わたくしは城東警察とのかかわり歴史は、何倍も長いがこの思い出は次回に譲る。

午後二時　新木場４丁目にある警視庁ヘリポートから、「おおぞら２号」ＡＳ３３２ＬＬアエスジャパン　２０人乗り馬力　２８８７Ｘ２　最高速度　３１５ｋｍ巡航速度２６０ｋｍ　重量　８６００ｋｇ　高度３００ｍ～１５００ｍ　最高１５００ｍ　価格　８億７千万円との説明を受けていよいよ出発だ。ヘリの写真は、許可された場所以外は禁止、搭乗中の写真は自由とのことだ。希望を聞かれたので、新木場最大の関心事は、臨海大橋である。上空を飛んでくれとリクエストしたが、羽田離着陸のコースにあたること、なお本日は、南風が強く、着陸機のコースが広いことなどでできないといわれた。ただし進行方向の左側に座れば、よく見えるとの説明を受け左側に座った。ところが、これが失敗で西日をあびての逆光線を受けて、視界もくっきり見えず、写真も逆光線のため真黒になって残念な結果になった。しかし臨海大橋工事現場全体の流れはおおよそ見当がついた。わかったことは、工事は順調に進んでいることは確かですでに、橋脚部分をいくつか確認することができた。予定どうり、平成２２年の３月には完成するのではないか、そんなことで、臨海大橋工事現場全体は上空から確認することができた。離陸直後に、西南へ向かったヘリは、臨海副都心から北へ機首を向け、三つ目通りを北上し、東に向きをかえ、明治通りから再び北へ旋回し、地元城東警察管内を巡行した。搭乗者は、砂町大島亀戸各町の有力者たちなので、自分の街を上空から眺めあれこれ指さしは話あっていた。ご自分の住居なども確認し、遠足のようなもので、町の有力者がハシャギまくっていた。ヘリは亀戸上空から西へ進路をかえ、新宿副都心を目指す。途中には、桜の名所、靖国神社、千鳥がふち、新宿御苑、代々木公園などの桜を遠望？した。高度は３００ｍぐらいか、上空からの桜は、当然ながら小さな花が、薄紅色の草を見ているような感じである。それもややうす曇りの空模様花霞雲が漂っているような桜を空からの観賞は今一つであった。やはり桜は下から見上げるものではないかと実感した次第である。池袋上空赤羽へ、荒川に達し、ここでユーターンして、搭乗者からリクエストのあった飛鳥山、空からの花見をたのしみ、一路帰路についた。ヘリは高度を上げ最高高度１５００ｍとのアナウンスあり、地上をみるとまるでモザイクのような街並みが遠望できた。それにしても、東京は大都会だ。さきごろブラジル各地をまわり、ニューヨークを訪問した。東京と比較すると、私の直感では、東京のほうが大都会ではないか。

臨時号深川祭り

深川富岡八幡宮の大祭は３年に一度、旧盆の８月 15 日を中心に、氏子５０数町余の神輿が連合一同に会し練り歩く渡御と言い、別名水かけ祭り言われている呼ぶ有名な大祭だ。大祭は 3 年に一度、大祭と大祭のあいだの二年間は、大祭を本祭りと言い、あいだの二年間をかげ祭りと言う。かげ祭りの年は、祭りもなく大半の町内は、静かな旧盆夏休みとなる。町内の役員、神輿総代、若睦などの世話役は、本祭りの年には、年が明けると話題は、祭りのことばかり、祭りのための準備に忙殺され、休日返上で準備することになる。大変な、ボランテアだが、もともと祭り好きのものが集まっているので、当日までにああでもないこうでもない、「隣の町にまけてたまるか」など気勢をあげて議論伯仲、時には口論、ケンカまで飛び出す騒ぎだ。しかし、これもご愛嬌でいうならば、落語の出てくる、はっさん、熊さんのやり取りのような展開で、これも愉快なものだ。これが、三年に一度の本祭りの話である、しからば、空白の二年間はどうするのかといえば、これも町内によってさまざまだ、予算のある町会、観光と販売促進の売り出しにかねてかげ祭りでも、本神輿、子供神輿、山車の町内巡幸を実行する町会と、黙って何もしない町会とがある。

前後するが、江東区はこの十年人口が 10 万人増えて今 43 万人、このままでは 50 万人も手が届く数字だ。こんな状況から新たらしい人が江東区に編入して新住民となるわけだが、

古くからいる住民と、この忙しい世の中、なかなか交流の機会がなくなじみが薄いのが偽らざる現状だ。何となく隣は何をする人ぞ、お互いに疎外感が生まれ、下町の向こう三軒両隣り昔から伝統の下町のよさが失われつつあるのを残念ながら認めざるを得ない。この閉塞感、疎外感を打ち破るのが祭りである。地域の祭りは、家族の祭り、家族の祭りは、子供の祭り、地域になんとなくなじめない人も、祭り囃しや、わっしょいわっしょいの威勢のよい掛け声、50 数台がつながって巡幸する連合渡御などから、興味がわき、特に子供たちが、学校の友達と一緒に子供神輿、もっと幼い年代は、お母さんと一緒に山車をひきたい子をたたく、これに見せられて地域に溶け込んでいく、コミニテーを形成するおおきなきっかけとなると信じている。ともあれ、今年は八幡様本宮からでる、重さに２トン、担ぎ棒 6 本担ぎ手 200 人の、大神輿が 3 年に一度のお出ましとなり、各氏子町内を巡幸する、担ぎ手は巡幸地元町内がかつぎ、次の町に手渡しする豪快で勇壮で目出度い祭りだ。

私も年がいなく、一丁触らせて元気をいただいたことをご紹介する。

細田通信　１０５号

リフォームー２

拡大するリフォーム市場

各調査期間の発表によれば、２０１０年にはリホーム市場は現状の７兆円から、１兆円増えて８兆円の膨大な市場に成長するとしている。大きな要因は、第一に、団塊世代が定年退職を迎えること、２．高度成長時代に建てられた建築後２５年～３０年（昭和５０年～昭和５５年）住宅が、リフォホームの時期に差し掛かること、３．１９８１年（昭和５６年）施行の建築基準法改正に伴う新耐震基準以前に建築された住宅の耐震改修工事が増加すること４．何よりも住民の、健康でより快適に生活を向上させようとするニーズの高まり５．加えて安心・安全・省エネなどの諸条件が重なり、大きな需要が発生すると予測している。

ニーズの中心は、建築後３５年（昭和４６年）以上の住宅の市場規模が、現状の１兆９千億円から２兆８千億円規模にに拡大すると見ている。

１０５号　お江戸日本橋

つい先日お江戸日本橋に行く機会があった。理事長を仰せつかっている日集協の事務所を「どこかよいとこないかいな」と探していた矢先たまたま、御世話いただいたので下見に行くことになった。事務所は日本橋１－７－８野村證券発祥の地に近く、地の利の良いところで、これならよろしい、あとは条件次第ということになった。そのあと、日本国の始まりである日本橋をつぶさに視察した。普段は、注意してみないもの、自分にかかわりが出てからしっかり見るものだ。これは私だけだろうか？人間はだいたいこんなところではないか。ともあれ閑話休題、以下は日本国道路元票に記録されているものを要約し紹介する。

## Zero　Milestone　in　Japan

日本橋は 1603 年に創架され、幕府により五街道起点として定められた。五街道とは、東海道、中山道、甲州街道、奥州街道、日光街道である。里程標によれば、横浜市 29 キロ、名古屋市 370 キロ、大阪市 550 キロ、下関市 1076 キロ、鹿児島市 1469 キロだ。現在の日本橋は 1911 年、明治最後の年、明治 44 年に架橋された明治生まれだ。ルネッサンス様式の石造二連アーチ橋で、四隅の親柱の銘板に刻まれた「日本橋」及び「にほんはし」の文字は最後の将軍徳川慶喜公の揮毫によるもの、これも興味深いもので私自身も不勉強のため知らなかった。1972 年、昭和 47 年に日本橋中央の「東京史道路元票」が、現在の場所移設･保存された。その据えられていた跡には、内閣総理大臣佐藤栄作氏（後にノーベル平和賞受賞）の揮毫による「日本国道路元票」が埋表された。

東京市道路元票は 1999 年に米寿を祝う日本橋とともに国の重要文化財に指定されている。小泉前総理が、日本橋は、日本の起点で、由緒深い橋だ。この日本の歴史と文化の発祥地に、高速道路が覆いかぶさるように重なり、誠に見苦しい、撤去できぬか といったことを思い出した。なるほど、日本国の起点を、東京都はあまりにも粗末にしすぎている。何とかしなければと痛感した次第だ。

細田通信　１０６号

リフォームー３

新築からリフォームへ住宅ストック時代の幕開け

新設住宅着工戸数の推移を見ると１９８７年度の１７２万９０００戸をピークに落ち込み平成１７年度１２０万戸台である。調査機関によれば２０１５年には１００万戸を割り２０２０年で８０万戸にまで落ち込むとの中長期予測だ。世帯数の増減、空き家の増加建替え戸数などを考慮した推計値は、２００３年では４７０８万世帯、住宅数５３００万戸、空き家６５９万戸、空き家率１２％に達している。これらから予測すると、新設住宅はよくて１００万戸、最悪８０万戸まで落ち込むことになり、新築需要は望めない。新築中心に住宅市場は、今や構造的な変化の波が、押し寄せてきており「住宅ストック時代」の幕開けを迎えていることが裏付けられている。８兆円規模に拡大する住宅リフォーム市場では、木材、建材業界は、営業体制や、販売流通面を見直す大きな節目だ。

１０６号

第２９回全国優良ツキ板展示大会

全天連では、今回の展示会からいくつかの変革を実施した。ひとつは合法木材の表示である。森林を育て、二酸化炭素を吸収し、地球環境を守るためには、違法に伐採した木材は使用しないとの対策として、展示出品ツキ板に合法証明を表示し、出品者は責任をもって合法木材の証明をする。初めての試みだが、全国全天連傘下の業者が一丸となって結集し今回の１１２４点の出品となった。次ははっきりとしたスローガンを打ち出したことである。従来からツキ板の厚みについてはっきりとした基準がなく、あいまイとされていた。この部分が、時にはユーザーの誤解から、不信感となり、業界全体のアキレスけんとなっていた。今回の展示大会を契機に、はっきりとスローガンとして打ち出し、ユーザーの誤解を解き、ツキ板に対する信頼の回復と、期待にこたえるものとして、打ち出したものである。スローガンは１．ツキ板の厚みを表示し、品質の向上に努めよう２．健康にやさしい天然木のよさを訴え、需要の拡大に努めましょう。３．違法伐採対策に取り組み、合法木材の供給を推進しよう。の三点を訴えた。

今回の特徴としては１．竹内新会長の強力なリーダーシップにより一本筋が通ってきた。２．イミテーション対策が一歩前に進んだ。３．審査員の先生方の交代により加工技術のみならず、製品の表示についても厳しい意見が出され曖昧ごめんの雰囲気となった。３．展示品は厚手化が進んでいる。４．白物全盛から景気回復の影響からか、やや色もの回帰の傾向が見られた５．材料不足が深刻化６．点数は揃ったが、ボリューム不足、７、ピークの三分の一などでらう。一番の問題は、材料不足がいよいよ現実化したことだ。イミテーションとの競争がいよいよ本格化する。いまこそ、地球環境を守る天然木ツキ板のよさ、本物のよさを強力に訴える運動を展開すべきである。

１０７号　リホームー４

住宅生活基本法―１

国土交通省は、「住宅生活基本法」の成立を受けて、住生活基本計画を了承した。計画によれば、平成１８年度から１０年間に達成する数値目標が定められており、国・地方・業者の３レベルで豊かな国民の住生活を向上すべく共通理念・共通意識のもとに実現に向かって住生活の基盤づくりを進めることが求められている。

戦後一貫して住宅の量の拡大を主眼としてきた住宅政策は住宅数が世帯数を上回った時期からそれぞれの時期に策定された５カ年計画には、量から質への向上が定められるようになった。さらに最近になって、少子高齢化の急速な進展、人口減少社会の到来を踏まえ抜本的な改革が求められられ、今回の住生活基本法が制定され住宅政策が「ストック重視」「市場重視」の方向へ本格的に転換したものだ。

１０７号　川越散策

風薫るＧＷに、小江戸、川越を訪れた。
川越は５５０年前太田道灌が川越城を築き、大政奉還の明治維新１８６６年まで、徳川幕府譜代の松平家が城主を務めていた。
いわば江戸もどきも街づくりを称して小江戸とも言われていた。
川越城は本丸御殿から武道館が当時の面影をしのばせる。いまでは観光客が多数訪れる川越の目玉だ。
昭和に入ってから、補修メンテで再生されているが、殿様が毎日出入りしていた木造の素晴らしい本丸玄関だ。
材木屋はこんな建物を見ると、たまらなく懐かしくなり、うれしくもなるもの、一日見ていても飽きないくらい嬉しいものだ。神殿造り山門式の正面を見上げれば、日本丸のマストのような、元末の径がほとんど変わらないまっすぐな、そして素晴らしい１２メートルに及ぶ霧除け丸太のお出迎えだ。
外装の柱はケヤキ、内装は、杉の磨き丸太で風格を見せている。ほかにもガイドの案内で、東照宮の別院、五百羅漢がならぶ喜多院などを散策した。
この町は小江戸といわれる通り、昔ながらの、狭い小道に沿い、庭のあるこぎれいに落ち着いた住宅が軒をつらねている。一方、札の辻から、蔵の町並みが続く本格木造白壁の道は、レトロにタイムスリップしたような、素晴らしい木造白壁の商店が軒を連ねている。
元気よい、呼び込みで、ご当地の名産品、お土産品を商っている。素晴らしい晴天に恵まれ、魂を洗われた一日であった。

１０８号　リフォームー５

住宅生活基本法―２

住宅生活基本計画の基本路線は、全国計画をもとに都道府県レベルでも今年度中に数値目標を盛り込んだ基本計画を立てる。この基本計画により、平成１８年度から１０年間に達成すべき目標が全国レベル・地方レベル、それぞれ数値かさえているのが特徴だ。その上、市町村レベルでも計画策定を推進し、補助金などのを含めた今後の住宅生活の具体的な方向性を示す指標ともいえる。